

敷地内農民を守ろう

10.22三里塚へ総決起デモ

団結小屋使用禁止命令 攻撃を許すな。

九・一七千葉市集会をはじめとする反対同盟の県内連日行動と県議会傍聴闘争によって九月千葉県議会における収用委員会の再建築動は完全に吹きとんでしまった。

反対同盟を先頭とする空港反対闘争によって「遅れに遅れ」を強制させられている政府・公団は九十年二期完成計画を断念し、あらためて九二年完成方針を打ち出してきた。九二年完成ということとは遅くても来年春までには強制収用をやらなければなりません。

団結小屋は、反対同盟と支援の共有財産!

そもそもこの「成田治安法」なる法の処罰規則の対象が建物などの不動産になつてきていること、デタラメさである。

また、反対同盟現地闘争本部をはじめ、各団結小屋を「暴力的破壊活動の拠点」と決めつけたのは極めて不当なものである。

現地闘争本部や、団結小屋は反対同盟農民の事務所であり、支援の生活の場でもある。いずれの施設も「破壊活動の拠点」として使われたことはない。このような暴挙を断じて許してはならない。

九月二七日、就任後初めて江藤運輸相が三里塚現地を視察し、団結小屋破壊の陣頭指揮をとることを内外に表明した。

江藤は、「支援さえしなければ農民なんていたことはない。支援がないからやれているんだ」と見下している。

「団結小屋破壊で国家権力の恐ろしさを農民に見せつけられ、農民は『話し合い』のテーブルに着く」とタカをくくっているのである。

こうした策動と並行し

て「できるギリギリの所でまで工事を進め、反対農民の方に見せることが、ご理解いただくことにつながる」(松井公団総裁)とし、農民の軒先まで有刺鉄線やフェンスで囲い込んで重圧をかけている。

重機による掘削工事のため水脈が変化し、営農に影響が出たり、生活用道路がいたるところで封鎖されたりしているのだ。

こうしたやり口は、国鉄攻撃と同じである。「動労千葉にいたら新会社に残れない」など、これでンパロー。

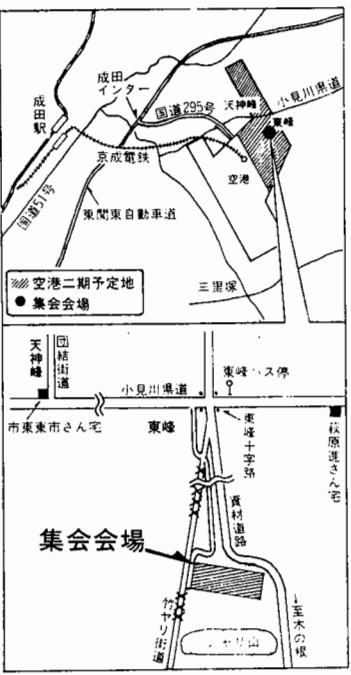
もか、これでもかと次から次へと組合脱退強要で揺さぶり、スキあらば切り崩すという手法なのである。

敷地内農民は、「腹は固まった、公団、機動隊はいつでもこい」と宣言。今こそ、反対同盟を守り、連帯を強化しなければならぬ。労農連帯の真価をかけて十・二二三里塚現地総決起集会に全力結集しよう。

十・二二から今秋ストライキにむかって共にガンパロー。

10.22全国総決起集会

10月22日(日) 正午 成田市 東峰 反対同盟員所有地
《主催》 三里塚芝山連合空港反対同盟



10:30 成田駅 作業夜

バス ↓ 現地へ